

## 年次支部ニュース

第20号



©Getsuriku

## 2024年 ご卒業おめでとうございます

2024年卒業の皆さま、ご卒業まことにおめでとうございます。

新型コロナウイルスも社会的に落ち着き中、社会活動も活性化されつつある環境の下で、今年、卒業された皆さんは社会人として、或いは大学院等に進まれる方もいるでしょう。どちらに進んでも中央大学の卒業生として学員（同窓）となるわけです。中央大学学員会は、約59万人の全卒業生で構成されている団体です。学員会の目的は、学員相互の親睦を図り、母校中央大学の発展とその使命達成に寄与することにあります。

近年の少子高齢化社会のもとで、入学者も大きく減少にいたる問題があります。一方で、デジタル化の進展が社会活動や学校教育にも大きく影響しつつあります。特に、生成AIの進展やチャットGPTの普及は、学校教育の在り方も大きく変化することが想定されます。このような時代背景の下で、中央大学では2015年に中長期事業計画「Chuo Vision 2025」（2016年から10か年計画）が

策定され、随所にその施策が実行されつつあります。昨年4月には、多摩キャンパスから法学部が新設の茗荷谷キャンパスに約5,500名の学生・教職員が移転してきました。

また同時にシンボルタワーとしての20階建の駿河台キャンパスには、法科大学院、ビジネス・スクールなどが移転しました。我々学員会本部も駿河台キャンパスの18階に入居しました。このように各施策が展開されつつありますが、大学入学志願者の減少など大学間競争も激化する中で、大学当局が自ら確実に施策を実行することが重要なこととなります。

また、昨年の中央大学のスポーツは目覚ましい成果をあげています。今年は新年早々、箱根駅伝では選手の風邪の流行もあり13位と残念な結果でしたが、スポーツを通じて人間力の向上にも結び付けることが期待されます。学員会としても学員が一丸となって支援していく所存です。

皆さんは、これから社会人として

中央大学学員会  
会長

久野 修慈



より充実した人生を謳歌することを期待していると思います。令和の新しい時代の若者として頑張ってください。

学員会の構成は、各卒業年度で構成する年次支部があり、各支部を横断的に交流する年次支部協議会が幅広く活動しています。また、全国の都道府県に地域の支部、職業区分による職域支部があります。卒業生は、これらの希望する支部を選んで入会することができます。そして、交流のネットワークの下にゆるぎない絆となり、終世交流を図れるでしょう。

卒業生の皆さん、明るく健康で気概のある若者となって国内外の企業や地域社会、学校などでお役にたてるよう前進してください。我々は、皆さんが各支部に入会されることを心待ちにしています。

末筆となりますが、この度の能登半島地震に見舞われた学員の方々に、心からお見舞いを申し上げます。

# 卒業生アンケート

## 我らかく戦えり!



写真提供：中央大学

### 4年生選手の皆さんへの質問

- ① 4年間の選手生活について「自分の役割も含め」どのように総括していますか？
- ② 4年間で印象に残った走りが出来た競技大会・区間・記録などあれば。
- ③ この4年間で心に最も残る「思い出」あるいは「得たもの」は？ 学生生活も含めて。
- ④ 卒業するにあたって母校、又はチーム・友人・後輩への思いをひと言。
- ⑤ 今後の進路を踏まえた目標や夢は？



植村優人

経済学部

- ① 選手を2年間、裏方を2年間経験させて頂きました。どちらの立場でもチームを引っ張るような感じではなかったですが、色んな人との会話を大切にし、チームの和を作ることに少し貢献できたと思っています。
- ② 大学の競技生活は不甲斐ない走りが多く、自分が納得できるようなレースはなかったように思います。
- ③ トップレベルの選手やスタッフの方々と何か一つの目標に向かって本気で取り組むという経験はなかなか出来ることではありません。そのためこの4年間恵まれた環境に身を置き、色々と感じ、考えたこと全てが思い出であり、得たものが、必ずこれからの人生の糧になると考えています。
- ④ 本当にお世話になりました。これからも皆さんそれぞれの活躍を応援しています。

写真提供：「©Getsuriku」



居田優太

経済学部

- ① 決して満足できるものではなかったが、トータルして考えてみると、今後のための4年間だったと思えば良い時間を過ごせたと思います。
- ② 関東インカレ1500m。いい意味で予想外のレースができたから。
- ③ 1年生の時の夏合宿。きつすぎたから。それがずっと残っています。
- ④ 今までありがとう。そしてさようなら。
- ⑤ まずは自己ベストを更新することが目標です。そこからまた新しい目標だったり夢を考えていきたいと思っています。



伊東大翔

文学部

- ① 箱根駅伝を走るという当初の目的を果たせなかったことは本当に悔しいですが、そのほかに得られたものはあったと思います。
- ② 男鹿駅伝。3年生時の。
- ③ 結果が出ない時に努力し続けることの難しさ。
- ④ 苦しい時があっても最後まで頑張り続けてほしい。
- ⑤ 結果が出ないなかでも選んでくださったチームに結果で恩返ししたい。

⑤地元地域の人々の暮らしを支え、地元が盛り上がるような活動を何かできればと考えています。



おおさわ けん と  
大澤 健人  
文学部

①想像していたより厳しいもので辛いことが多かった。しかし競技以外の場面でチームでのコミュニケーションなど自分なりに積極的に出来たことは良かったと思う。

②3年生の時の関東インカレ。初めての主要大会で入賞できたことがすごく印象に残っている。

③寮生活でみんなとすごした時間。毎日が楽しくて鮮明に覚えている。学生らしいことは余り出来なかったが、いい4年間だった。

④箱根優勝という大きな目標を達成して欲しい。

⑤社会に必要とされる人間になる。



おの き たい と  
園木 大斗  
法学部

①1・2年生の頃はかなり順調な競技人生を送ることが出来ていて、自分の役割としては三大駅伝で主要区間を走る事だと思っていたのですが、3・4年生では原因不明の病気や怪我に苦しんで思うような結果を残す事が出来ず、後悔しか残っていません。

②1番印象に残っているのは、2年生の時の全日本予選会です。4組目という大役を任され不安はありましたが、無事に全日本駅伝出場を決めることが出来、自信をつけることが出来ました。

③ない。

④卒業するかまだ未定ですが、どち

らにせよ競技は継続する予定なので、引き続き応援してくださいと幸いです。

⑤現時点では目標や夢が定まっていないので、競技を続けながら見つけていきたいです。



なか の しゅう た  
中野 翔太  
法学部

①チームにあまり貢献できなかったので悔しい。

②2年生中大記録会3000m中大新。

③トレーニングの重要性。

④頑張ってください。

⑤まずはトラック頑張ります。



は とう りゅう せい  
羽藤 隆成  
経済学部

①高校まで記録が右肩上がりに伸びていましたが、大学4年間は故障や不調に悩まされました。夢であった箱根駅伝は走れませんでした。本学での競技生活を通して、沢山の方と出会い、学び、成長をさせてもらえました。苦しいことの方が多かった4年間ですが、沢山壁にぶつかったからこそ自分を見つめ直す機会になりました。

特に4年目は、寮長という役職でチーム運営に関わらせていただきました。チームのことを考える時間が増え、それに慣れるまでは大変でした。チームのことを考える時間が増えたことで、自然と多くの選手とのコミュニケーションが増えていました。本当に充実していました。

②2023年関東10マイルロードレース大会の優勝。立派な優勝旗と、お米をいただきました。

③この4年間は何ととっても、大学

の授業での学びが本当に濃かったです。コロナ禍で最初の2年はほとんどがオンライン授業でしたが、その中でも工夫を凝らしてインタラクティブな授業を展開してくださいました。大学へ入り、今まで見たこともない分厚い学術書を読んだり、各学問分野の研究のプロの先生方の講義は勉強になりました。経済学部所属の私ですが、教職課程も履修していたことで、学部の壁を超えて沢山の方と出会うことができました。

教育実習では、4年ぶりに母校へ帰ることができ、沢山の先生方にご指導をしていただきました。実習後半では、研究授業をしました。お世話になった沢山の先生方の前での授業は、何よりも緊張しました。まだまだ改善すべき点はありますが、4年間教職課程でしっかり勉強してきたことは活かせたと思います。しかし、教育実習を終えたことがゴールではなく、ここがスタートだと思います。この先の目標へ向けて更に研鑽して参ります。

④後輩への一言は中国の座語の一つ、『日日は好日』という言葉を贈ります。これは、二度と来ないこの瞬間を大切に生きようということの意味です。後悔のないようにというのは簡単ですが、実際それは容易ではありません。ただ、4年間の大学生活を終え、このチームを離れるときに少しでも後悔の少ないように一日一日大切に過ごして欲しいです。後輩の皆さんの活躍を楽しみにしています。

⑤競技者は引退しますが、新たな形で競技に関わります。具体的な目標はまだ言えませんが、お世話になった中央大学に恩返しをするのが今のところの目標です。

# 卒業生アンケート



やま だ とし き  
山田 俊輝

経済学部

- ①良いことも悪いことも含めていい4年間だった。
- ②2年目、4年目日本インカレ。
- ③初日本選手権標準切り。
- ④皆んな輝けますように。
- ⑤オリンピック、世界選手権。



よし 居 やまと  
吉居 大和

法学部

- ①エースとしてもっと結果を残したかった。
- ②③箱根駅伝。1区・2区区間賞。
- ④今まで本当にありがとうございました。
- ⑤高いレベルの結果を残せるように頑張ります。



はま だ そら たか  
濱田 宙尚

商学部

- ①陸上部を良くも悪くも騒がしくさせた4年間でした。チームのスピーカーとして活動できました。
- ②3年生の学生ハーフ。良い走りが出て、夏の練習へ自信がついたことが思い出に残っています。
- ③一つのことに前向きに向き合う姿勢です。特に部活動の周りのみんながその姿勢を持っていて、すごく学ばせてもらいました。
- ④4年間本当にありがとう。ここで陸上ができたことは一生の宝物です。
- ⑤ここで学んだことを活かしてカッコ良い大人になりたいです。



ゆも と あさ ひ  
湯浅 仁

経済学部

- ①選手としても4年かけて成長できましたし、正しい努力の方向性を先輩に示せたので良かった。
- ②2年生の箱根。区間3位。
- ③自分自身が非常に恵まれていることを実感できた。
- ④もしやる気がなくなったりモチベーションが下がってしまったら、自分はここに何をしにきたのかを考えて自分で自分を奮い立たせてほしい。
- ⑤マラソンで日の丸を背負う。

## 主将としての質問

Q 今年のチームはどんなチームでしたか。

A たくさんの失敗から勉強できたチームだった。

Q Cマークはプレッシャーでしたか。

A いいえ。

Q 主将として1番心がけた事は何ですか。

A まずは個人で結果を残すこと。

Q 主将になって良かったと思うことは。

A 他人のことを考える癖をつけられたこと。

Q 新主将に託する思いを教えてください。

A 背負うものは何もいらなと思います。自分にできることを信じて、チームメイトとスタッフを信じて堂々と言動してほしいです。



箱根駅伝報告会で 「©中大スポーツ」新聞部

## 4年生マネージャーへの質問

Q 選手諸君を陰で支えているマネージャーさんの役割や、選手などの裏話も含め、4年間で感じたことを自由に書いてください。



いと すず か  
怡土 涼香

経済学部

4年間で感じたこと

- ・中央大学は多くの人に支えられて愛されているチームだということ。
- ・マネージャーに対しても敬意を持って接してくれる優しい選手たちがいるおかげで4年間続けることができた。
- ・挫けそうな時ほど仲間たちに支えられた。
- ・経験させてもらったことが幅広かったのも、今後にも活かしていきたい。



こ ばやし な お  
小林 菜緒

法学部

チームの裏方であるマネージャーは、自分ではなく周りの選手たちが輝くようにサポートするのが役割であると感じています。何か苦しいことがあった時にどんな接し方をすると前向きになれるかは選手によって異なるので、普段の生活から一人一人をよく見るようになりました。この4年間で様々な考え方や生き方を知ることができ、仲間といることで得られた刺激にとっても感謝しています。

(写真提供：©「Getsuriku」)



【1区・溜池一太選手】



【2区・吉居大和選手】



【3区・中野翔太選手】



【5区・山崎草太選手】



【4区・湯浅仁選手】

## 第100回

## 中大チームの奮闘 箱根駅伝

区間賞



【7区・吉居駿恭選手】



【6区・浦田優斗選手】



【8区・阿部陽樹選手】



【9区・白川陽大選手】



【10区・柴田大地選手】

写真提供：「©Getsuriku」

## 学会本部に「若手学会委員会」を設置 平成・令和卒業生を支援

学会副会長  
菊地 裕之  
(1993年卒)



### 「若手学会委員会」 とはなにか？

2020年に学会本部が力を置くべき事業として「若年、女性学会強化の対応を組織的に推進する」が挙げられ、若手学会への対応強化に「組織的に推進」することとなり、幹事会において「若手学会委員会」の設置が認められました。

現在は、私が担当副会長、北村委員長他 計7名の委員にて活動しております。

若手と言いましても、何を隠そう私も1993年(平成5年)卒業ですので、すでに50代中盤に差し掛かろうとしております。概ね卒業後25年まで、または平成・令和卒業を対象としていると考えていただければと思います。

学会では、まだまだ「昭和年次卒業」の先輩方が多くいらっしゃいますが、学会を続けていくには平成・令和卒業年次がバトンを受け運営していく必要があります。若手学会員がどのように、母校中央大学と(愛校心を持ち)繋がっていくことができるのかを考え、「集合イベント実施による親睦の場を提供」「知的好奇心(自己研鑽)をサポート」「学会員の『たまり場』のような場を作る」というような企画を出し合い議論して実行に移す、そんな(学会直下の)委員会です。

昨年コロナ禍も収まり様々な活動を行いました。



第7回白門駅伝大会

### 集合イベント実施 による親睦の場を提供

#### 白門駅伝大会

2016年(平成28年)に始まった「白門駅伝大会」は、コロナ禍で中止を余儀なくされ、直前2回はオンラインイベントでの開催でしたが、昨年11月4日、4年ぶりにリアル開催となり多摩キャンパス陸上競技場で第7回を行うことが出来ました。雲一つない空の下、親子ランに32組64人、2時間禱りレーには46チーム271人を含む約350人が参加。参加賞であるCマーク入りTシャツを着用し陸上競技場内を駆け抜け禱りを繋げました。

#### 白門ハイクラリー

「白門ハイクラリー」は、多摩キャンパスとその周辺の豊かな自然環境や街を再発見するハイキング&スタ

ンプラリー企画として、昨年11月3日に初めて開催しました。白門祭開催中の多摩キャンパスを起点に、多摩丘陵の「かたらいの路」、多摩動物公園北側の金網の塀から垣間見るオラウータン、高台の住宅街、高幡不動尊、そして大学に戻ります。当日は11月とは思えない気温25度!

快晴に恵まれ、学会やご家族他約140人の参加者が楽しむことが出来ました。

通学にはモノレール利用が大多数となり多摩動物公園方面から通学する学生も少ない昨今、この機会を利用して歩いた方も多く、「ヒルトップ隧道を歩いて懐かしかった」「母校近くにこんな素晴らしいウォーキングコースがあると知らなかった」との声が聞かれました。

ゴール後の抽選会では、「C中央大学」マーク入りのオリジナルシェラカップや豪華賞品を手にとっても楽しく過ごせたとの感想をいただきました。

## 知的好奇心(自己研鑽)をサポート

さらに、若手学員の知的好奇心(自己研鑽)をサポートする企画「CBS戦略経営アカデミー『MBA エッセンス講座』を受講する若手会員への受講料補助」も初めて行いました。こちらは、中央大学ビジネススクール戦略経営アカデミーがビジネスパーソンを対象に開講する短期で学べるMBAエッセンス講座「ビジネスプランニング」(新藤晴臣教授)の受講を希望する若手会員に受講料の半額を助成するものです。

CBSの誇る知的財産(講師、コンテンツ)をフルに活用し、プロフェッショナルを目指すビジネスパーソンたる若手学員のキャリアアップやリスキングに資することが第一。

第二には社会の第一線で働き、学ぶ若手学員の新たなネットワークの形成、さらには学会における近い将来のコア人材の発掘、獲得も期待し実施しました。

最終講義後には、参加会員、教授陣を含む計14名で異業種交流会を開催し、参加会員から今回の学びについて発表をいただき、参加者全員で親しく交流することができました。



## 会員の『たまり場』のような場を作る

### 白門サロンの開催

また、次年度の企画として、「白門サロン」を開催します。毎月第3木曜日19時頃から駿河台キャンパス19階「Good View Dining」に若手会員が集まり屈託のない意見交換を行うことを目的としています。毎回絶対に集まらないといけないというスタンスではなく、集まることのできるメンバーで気兼ねなく語り合う「たまり場」とし、参加会員相互の親睦と情報交換、大学や学会の活動について発信し各種イベントへ参加していただき学会を盛り上げる

原動力になればと考えています。

2024年度もいろいろな活動を設定しています。会員時報(紙面、オンライン含む)、学会ホームページやX(旧Twitter)でも情報発信しておりますので、ご確認をお願いいたします。

卒業されるほとんどの方は、今後社会人として活躍されていくと思います。これまでと異なる環境でのコミュニティ形成の一助に学会を利用させていただくことをおすすめします。

私自身、大学卒業後に現在の会社に入社し、名古屋⇒三重⇒大阪⇒東京と異動してきましたが、その先々で学会地域支部に加入させていただき大変お世話になりました。どこの支部に参加しても、同窓というだけで、卒年も業種も異なる先輩・後輩たちと交流することにより、地元ならではの情報を入手でき、飲み会だけでなくゴルフやBBQ、講演会等のイベントにも参加、人脈の構築に大いに役立ちました。少しは!?仕事にも繋がりました(笑)。最初のノックは少し勇気があるかもしれませんが、全国どこに行っても同窓の繋がりがあります。それぞれの場所で先輩会員が暖かく迎えてくれます。皆様のご参加をお待ちしております!



## ■白門一新会支部■

### 若手同窓会というチャレンジ — 一新会

前支部長 谷村 一成 (2018年卒)

2018年4月。晴れて新社会人となった私は、白門一新会という、35歳以下の中央大学卒業生による若手同窓会を設立した。社会を一新するような活躍を白門の卒業生から輩出したいという大志を抱いて会名とし、意気揚々とスタートしたのだが、道のりは険しかった。

正直、同世代の若者たちにとって同窓会は過去の産物。好んで参加するものではないという反応であった。いつか、定年退職したら余暇として参加するかもね、という方も。しかし、私は若者にとってこそ、このような同窓会活動は重要であると考えた。社会人になったばかりで、本当

に忙しいし、仕事もだんだんと楽しくなってくる時期だ。良くも悪くも会社と家庭の往復だけの生活となる。しかし、会社でも家庭でも活躍できる人材に成長するためには、リベラルアーツといってしまうと大袈裟かもしれないが、固定的な環境だけでなく、たまには多様な業界、多様な世代、多様な地域などで活躍する白門の同窓生と出会い、情報交換や、時には何らかの活動を共にすることが、多角的な視点や豊かな人間性を育むことは間違いない。

理解されないことも多かったが、そんな信念で、加藤幹事長や野島・高嶋・松田幹事、古川会計監事といっ

た仲間、そして会員の皆さんとともに、5年間を歩んできた。コロナ禍にはあらゆるイベントをオンライン化し、ペーパーレスやLINE等の活用で、若者らしい同窓会を作ることができたのではないかなと思う。

2023年3月末に会長を退任し、新体制となった。岡野新会長と椿新幹事長は、学生時代より非常に影響力のある人物で、白門一新会を新しいステージへと導いてくれるに違いない。私の時代にあまりできなかった、他の白門会とのコラボレーションも推進したいとのこと。ぜひ諸先輩方の皆様、これからの白門一新会もどうかよろしくをお願いします。

### 一新会 継ぎはじめにご挨拶を。

新支部長 岡野 めぐみ (2019年卒)

2023年4月付で白門一新会2代目支部長に就任しました、岡野と申します。今回、このような役職を仰せつかりまして、身の引き締まる思いです。年次支部すら無い若手学員を対象に「若手同窓会」という枠組みを産んだ谷村前支部長・加藤現副幹事長には及びませんが、覚悟を決めて継ぎ初めました。今年度は、学員会本部の機能である若手学員委員会の多大なるご支援を頂き、たくさんの先輩方にお会いすることができましたこと、改めて御礼申し上げます。

私は96年生まれ(27歳)法学部2019年卒業の身です。振り返れば入学してすぐ、待ちに待った「アカデミズム」に没頭する環境がないと気付き腑抜けになり、在学中は中途

半端なガクチカと就職活動の早期化を受けて、煮え切らない学生生活を送っていたようにおもいます。現在の中央大学や社会全体を見渡すと、私に似た不完全燃焼の在校生や若手学員は少なくないはずです。

しかし、支部長に就任してから、偉大な先輩方のお話を伺う機会に恵まれました。初仕事の支部長会議では、私の知っている「中央大学」がいかに浅はかだったかを痛感しました。都心回帰した駿河台キャンパスで、随分と目上の先輩方のお姿から、私の憧れるカルチュ・ラタンで揉まれていた「強い中央」を目の当たりにし、皆様の築き上げてきた歴史の重さを実感しました。バレー鑑賞に連れて行ってくださった女性白門会

の先輩からは、独立・自律することと同時に、人と交わることの楽しさを学びました。若手学員委員会の先輩からは自分の挑戦を成功させる戦略を学んでいるところです。

恐れ多くも、私の役割は「伝統」を楽しみ、同世代に知らせて仲間をつくり、わずかでも中央魂を継いでゆくことだと感じました。リーダーとなるのも初めての経験ですので、至らぬ点多々あるかと思えます。多様な先輩方や支部とのご縁を1つひとつ大切に、中央大学のさらなる発展に向けて日々精進して参ります。まだまだ未熟者ですが、これまで以上に、皆さまのご協力・ご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願ひいたします。共に学員会を盛り上げて参りましょう！



## 卒業 50年

### 多彩な活動で周年を祝う

白門48会支部

支部長 酒井正三郎  
(昭和48年卒)

白門48会支部の会長(支部長)の酒井正三郎です。48会は、1999年6月に設立され昨年で25周年、四半世紀を迎えました。現在の登録会員数は350名余で、中央(東京)のほか関西・九州・東北に地域支部があります。会の役員会(幹事会)は、オンラインもしくは対面式により毎月定例開催されています。また、会員の情報媒体としては現在37号を数える会報とホームページがあり、これらを利用して活発な相互交流がはかられています。

48会は設立以来、「会則」に謳う「会員相互の親睦と交流を図ること」、「母校中央大学の発展と興隆に寄与すること」という趣旨にしたがって多彩な活動を展開してきました。現在継続中のものだけでも、駅伝応援、学生スポーツ応援、旅行・ハイキング、花見、江戸探訪、俳句、グルメ、ゴルフ、ボート(レガッタ)等々とかなりの数にのぼり、それぞれで同好の士が集まり楽しく有意義なひと時を過ごしています。また毎年、盆・暮・正月をはじめとして四季折々、逐次懇親会が持たれ、元気伺いとともにも様々な情報交換の場として活用されています。

一方母校とのつながりという点では、48会として学校法人中央大学評議員会および商議員会に代表を送り、また学員会全国支部長会議や年次支部協議会に参加して、大学の発展に資するべくさまざまな意見表明を行っています。周年事業の際には大学の呼びかけにこたえて募金活動にも取り組み、48会として一定額を寄附したことも母校への貢献の一つとして記録されてしかるべきかと



記念総会での座談会

思います。

48会の同期生一同は昨年、大学卒業50周年を迎えました。今号の「年次支部ニュース」は、20号という節目の号であると同時に2023年度卒業生記念号でもあるとお聞きしていますので、以下では昨年中に取り組みされた記念行事の一端を紹介し、年次支部としての会の活動理解の一助とさせていただければと思います。

記念行事は、48会の中に三つの事業部会(式典部会・記念旅行部会・記念誌部会)を立ち上げ、それぞれの部会責任者を中心に1年半余りの期間をあてて準備をしてきました。

記念式典は2023年6月24日の定時総会に合わせて挙行され、その中心行事は各界で活躍する同期生著名人による座談会でした。また記念旅行は2泊3日の日程で、北海道函館地区に同地の自然と歴史を訪ねる旅として行われました。そしてこれらの諸行事をも盛り込みながら大判(A4版)80ページ建ての記念誌が作成さ



記念旅行は函館へ

れました。自画自賛で恐縮ですが、冒頭に50年前の駿河台や御茶ノ水駅界隈の写真をふんだんに配置した同誌はなかなか好評で、現在も領布の引き合いをいただいています。

なお、2023年10月の第32回ホームカミングデーの折には、卒業50周年の招待年次である48会同期生は、本部の多摩キャンパスとは別に、当時の学舎があった駿河台キャンパスでの並行開催が認められ、記念講演会や懇親会を独自企画として行い、予想を超える多数の参加者のもと懐かしい出会いなどで大いに盛りまりました。



駿河台キャンパスでホームカミングデー



独自企画で卒業50周年を祝う

このほか、10月の出雲駅伝応援には山陰地方の旅行を兼ねて2泊3日で行きました。また48会の年中行事として、知る人ぞ知る、箱根駅伝の大平台ヘアピンカーブでの応援は今後の100回大会でも実施され、その後の懇親会を含めていずれもメンバー多数の参加をえて盛会でした。

# 年次支部協議会

## 白門57ネット落語会「林家つる子さん独演会」

乗兼 浩明(昭和57年卒)

昭和57年卒業の年次支部、「白門57ネット」では、2014年以来中央大学落語研究会OB・OGの噺家さんをお招きし、「白門57ネット落語会」を開催してまいりました。また、2017年からは年次支部協議会とのコラボ企画とし、多くの学員の皆様やご家族にお越しいただき、江戸落語を楽しんでまいりました。

今まで多くの噺家さんを高座にお招きしましたが、その中でも一番多く御登壇いただいたのが林家つる子さんで、コロナ禍でのオンライン開催を含め2022年までに4回お話を伺っており、私たちはつる子さんを勝手に、「うちの子扱い」しています。

そして2023年の企画を考えている最中に「つる子さんが来年3月に真打昇進」という朗報が入り、超多忙を承知でつる子さんに恐る恐るリアル開催での独演会をご提案したところ快諾いただき、めでたく実施の運びとなりました。

2023年11月12日独演会当日。真冬を思わせる寒さの中、神保町の出版クラブビルにおいて、「林家つる子独演会」を開催いたしました。当日は白門57ネット・年次支部メンバーやそのご家族45名が集まり、4年ぶりのリアル落語会を楽しみました。

藤音頭の出囃子でつる子さんが登場すると「真打おめでとう！」「待ってました！」の声があがり、つる子



さんははにかみながらもお礼の言葉を伝え、一



席目の新作落語「スライダーク課長」に入ります。体を張った熱演ととぼけた課長の様子に、一同笑い転げました。

一席目の後は特別企画インタビューコーナーで、真打昇進の喜び、本名「須藤みなみ」さんの名前の由来とそれにまつわる正蔵師匠との不思議なご縁、ライフワークとして取り組まれている「女性目線での人情噺」への想いなどを語ってくださいました。また「同窓の先輩として、私たちが何をすると一番うれしいですか？」の質問には、「3月から始まる真打昇進披露興行にぜひお越しいただきたい」と即答。「席亭の期待に応えるために、空席を出すわけにはいかない」という強い気概を感じました。

中入り後、「真打になっても改名はせず、林家つる子という名前と一緒に昇進する」「噺家は名入りの手ぬぐいを持っているが、昇進を機に新しいデザインを考えている」「制作にあたっては染付職人である紺



屋(コウヤ)さんと楽しく相談している」というまくらから二

席目の「紺屋高尾」へ。私たちに紺屋さんという職業を事前に紹介して、主人公にすんなり感情移入させるという展開。見事です。

内容をご存じの通り、吉原の売れっ子花魁・高尾太夫と太夫に一目ぼれをした純朴な紺屋職人との純愛を描いた人情噺で、お話の後半では客席にハンカチで目頭を押さえる姿が多く見られました。

例えば、このお噺も「芝浜」や「子別れ」同様、女性目線でのストーリー展開に挑戦してみたいとのこと。今後への期待が大いに膨らみます。

独演会の後は、居酒屋で肩を寄せ合っただけの懇親会。つる子さんも私服に着替え、髪を下ろし、快活で可憐な須藤みなみさんとして参加。暖かく和やかな会となりました。

会の締めでは最長老の堀合先生から「名人の域を超えて、ぜひ人間国宝を目指してほしい」との力強い激励。つる子さんは一瞬真顔で受け止めながら、一転今日一番の笑顔で「頑張ってみます！ 応援してください！」と応答。さすが林家一門。「愛されキャラ」はお家芸です！

私たちは、厳しい芸の高みを目指して、覚悟をもって一步を踏み出す「うちの子」の背中を見守り・支え・後押しすることを誓い合っ、大きな激励の拍手を贈りました。

## 4年ぶりにキャリア形成プログラムを対面で実施

学生後援部の活動に、従前から行っているキャリア形成プログラムがある。最近、卒業後数年の若手卒業生で構成されている白門一新会支部の方に企画段階から加わって頂き、2023年の後半には、実に4年ぶりに対面プログラムにて実施したところである。プログラムの目標は、価値観の多様性を認識し、自身で切り開くキャリアに自信をもち社会へはばたく学生を輩出する支援、で変わりはないが、対面かつ少人数ならではの利点を活かし、学生は普段聞きにくい質問ができる。それに対して社会人は真摯に回答をする、という姿が随所で見られ、そのため、実施後のアンケートでも高評価を頂けたところである。

### 少人数で実施した対面プログラム



10月：茗荷谷キャンパス



11月：多摩キャンパス

また2023年は、プログラム参加者の中から希望される方に対して、その後も気軽に相談ができるメンター・メンティー制度を試験的に導入した。効果はてき面で、こちらメンターとして対応して頂いている一新会メンバー、更には一新会メンバーよりは社会人経験の長い年次支部メンバーの尽力の賜物で、直近ではなかなか叶わなかった寄り添った支援ができたものと思料。学生の希望者が増えてきたことで、個別対応から、少人数ではあるものの複数人対応にシフトできるか、あるいは相談者の内容・フェーズに応じて相談を受ける社会人をアサインすることができるか、改善を図っているところである。

年次支部と一新会のコラボは、当初予定よりも多くの一新会メンバーにご協力を頂いているところであり、今後も継続して取り組んでいく予定である。

(学生後援部：久保 良太(平成11年卒))

## OB・OG向け発表会ならびにリサーチフェスタを開催

大学・学員交流部によるOB・OG向けプレゼン発表会も、本年で8回目を迎えた。従来は、経済学部や商学部のゼミの発表を聞くことが多かったが、ここ2回は、総合政策学部の発表会(リサーチフェスタ)に出場されたゼミの発表を拝聴させて頂いている。どの年も、実施前に、各学部の教職員と大学学員交流部との調整に注力され、正に関係性構築による賜物で成り立っていることを、改めて感じた。

リサーチフェスタも今回で11回を数えるそうだが、準備から実施まで運営の全ては、学生の自主性によって成り立っているとのこと。今回は、予選を勝ち抜いた6つの発表には、最近のトレンドを取り上げたものからインドネシアでの文化に着目したものまで幅広いテーマであったが、特筆すべきこととして、中村先生のゼミ生による発表が半分の3つを占めていたことであり、更なる中から、最優秀賞・優秀賞が選ばれていることである。

中村先生ならびに中村ゼミの学生のご協力を得て、OB・OG向けプレゼン発表会が2024年2月3日に実施された。日本の金融リテラシーを高めるための金融教育の必要性、ふるさと納税の地方活性化、中大生協の利用率低迷からどのように改善を図るか、という3つのテーマを披露頂いた。例年のことで、OB・OGの忖度のない厳しい質問もあったが、今年は学生なりに純粋な回答が多く、あまりたじろぐ様子もなく、堂々としていたのが印象的であった。

末筆で恐縮ではあるが、今年は白門63支部の松尾あずささんによる沖縄県、多摩市を取り上げた民俗調査という基調講演も行われたため、大変アカデミックなひとときを過ごすことができた。

(学生後援部：久保 良太(平成11年卒))



リサーチフェスタ



OB・OG向け発表会

## 中大水泳部創部100周年記念祝賀会を開催!

伝統と実績を誇る中大水泳部が創部100周年を迎え、2024年1月13日、竹橋のKKRホテルで記念祝賀会を開催しました。

シドニー五輪のメダリストでスポーツコメンテーターの田中雅美さんの司会で、河合学長、久野学員会

長が挨拶に立ち、100周年を祝いました。

会場には現役で活躍中の池本風沙さん(法3)をはじめ、数々のオリンピック選手や記録を作ったOB・OGたち300名ほどの参加者が集い、大盛況の祝賀会となりました。



### 学員会に集い、白門の絆を深めよう!

1885年に英吉利法律学校として創立した伝統ある中央大学では、50万人以上いる卒業生を学員と呼んでいます。学員が行くところには必ず学員の輪ができるように、世界中にいる中央大学卒業生の絆とネットワークを深める同窓会が「学員会」です。

活動の拠点となる「支部」は、地域支部127(うち海外18)、年次支部57、職域支部66、など250支部があり、複数の支部に入り活動することも可能で、年代や業種を超えて楽しく活動・交流しています。学員は、様々なサービス(学員カードによる図書館の利用、学員時報・HPによる情報収集ほか)が受けられます。モノだけではなく、同窓の輪が広がっているため、活躍している卒業生の人脈で、社会に出てから助けられることもたくさんあります。

詳しいことは学員会本部事務局(電話:03-6261-1615)にお問い合わせください。

ともに白門の絆とネットワークを深めていきましょう!

### 《中央大学2024年度入学式(予定)》

**日時** 2024年4月2日(水) 13時~13時40分

(集合時間は4つのグループに分けて行い、同伴者は式典会場に入場せず、8号館にて公式WEBライブ中継を見る)

**対象** 全学部・大学院(専門職大学院は除く)

**場所** 中央大学多摩キャンパス第1体育館3階アリーナ

学員会から

卒業生全員に卒業を記念して

**「卒業記念Mug Cup」を贈呈**  
(COACH)

~学員間の絆の広がり、学員間の親睦の証~

祝ご卒業



## 新規会員の参加を歓迎します!!

各年次支部は、同期会の集まりで大学、学員会会員との繋がりで活動しています。

▶スポーツ応援「陸上・水泳・野球・ラグビー他」(箱根駅伝の応援、東都大学野球応援、オリンピック選手などの応援ほか)

**各年次支部の活動…好みの活動に任意に参加ができます。**

▶会員間のビジネス交流で人脈の拡大、更に先輩・後輩との繋がりを醸成

▶趣味の一致で、幅広い交流とコミュニケーションの充実

▶同期生の各職専門家との交流で、信頼感をもって問題解決への導きを図る

▶講演会、セミナーなどへの参画により自身の教養などを向上させる

《加入などの問い合わせ》学員会事務局:03-6261-1615

《年次支部ニュース 第20号》 2024年3月15日発行

発行者/中央大学学員会年次支部協議会

発行人/清野 強

編集/年次支部協議会広報部

〒101-8324 東京都千代田区神田駿河台3-11-5 中央大学学員会事務局気付

TEL 03-6261-1615

印刷所/(株)ディスカバリー